

鬼怒川・小貝川上流域大規模氾濫に関する減災対策協議会
鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会

マイタイムラインリーダー認定制度変更の提案

在日外国人へのマイタイムライン普及について

マイ・タイムラインリーダー認定制度改正の提案

➤ 現在マイ・タイムラインリーダーの認定者数は、385名となっている。

図1

リーダー階級	
マイスター	5名
A級	5名
B級	27名
C級	348名

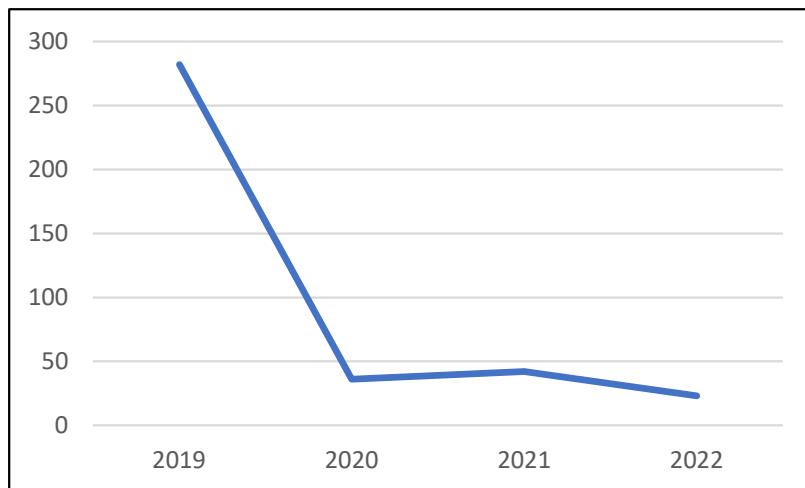
図2



現行の制度では、リーダー認定研修を受けた方はC級からスタートとなる。C級では講師補助しかできず、単独で講座開催ができない。また、C級からB級に上がるためには講師補助を3回実施しなければならないため、なかなか昇級できない。

リーダーの内訳を見ると、大多数がC級であり、講座講師として活動できずマイ・タイムライン普及につながっていない。

図3 マイ・タイムラインリーダー認定数



マイ・タイムラインリーダーの認定数は開始した2019年が多いが、それ以降は低い数値になり減少している。

マイ・タイムラインリーダー認定制度改正の提案

提案

1. 講座講師をふやすため

防災士などの基礎知識がある方については、リーダー認定講座受講後にB級に認定し、講師として活動できるようにする。 ※1

※1 基礎知識がある方について

防災士、気象予報士、河川行政や防災行政経験者（現役自治体職員は即講師のため退職者を想定しています。）消防団、水防団経験者及び学校教師。

2. マイ・タイムラインリーダーを増やすため

一般人向けのリーダー認定講座については自治体職員を講師として開催していただいているが、経験を積んだマイスターの方も認定講座の講師として講座を開催できるようにする。

外国語版逃げキッドの作成及び在日外国人へのマイ・タイムライン普及について

- 平成27年9月の関東東北豪雨において多くの逃げ遅れの発生。
- 特に常総市や八千代町は在日外国人が多く、外国人の避難意識の向上、災害時の情報伝達が課題。
- 茨城県減災対策協議会、栃木県減災対策協議会ともに外国人への情報伝達が課題となっている。

令和4年度の減災対策検討業務において、外国語版の逃げキッドの作成及び試行版を使用した講習会を実施。



常総市在住ブラジル人を対象とした講習会
日時: 令和4年7月15日
場所: 常総市役所
対象: 常総市在住ブラジル人学生 7名
協力: 筑波大川島ゼミ 11名
実施: 下館河川事務所 事務所長他3名
常総市 常総市長他4名
河川情報センター 4名



講習会での意見

- ・ハザードマップ内の用語が難しく理解できない。
- ・自分の国では災害がなく、マイ・タイムラインの重要性がわからない。
- ・水害に対する知識が無いため事前に基礎知識(防災用語など)の説明が必要。
- ・避難について考えたこともないため、そこからの説明が必要。
- ・1人では作成できない。
- ・水害の情報を得る手段がわからない。

今後の進め方(案)・・・○在日外国人の実情を知る講師が必要



各県国際交流協会に講師について相談。
在日外国人と日頃から関わりのある方を講師とした方が外国人に理解があり良い。
講師候補者を紹介してもらい、令和5年度から講師研修及び外国人を対象とした講座を実施、改良点などをとりまとめ、流域での普及のためのマニュアルを作成。

在留外国人へのマイ・タイムライン普及における関係機関との役割と年度計画(案)

○鬼怒川・小貝川減災対策協議会の事務局である下館河川事務所がR6年度までは**主体**となり、モデル自治体と連携し、以下の事項を整理する。

- ①モデル自治体における講師育成の試行
- ②育成講師による講習会の試行
- ③教材作成
- ④講師育成研修実施のためのマニュアル化

○④のマニュアルを参考に、**市町・県**がR7年度以降**主体的に実施**できるようにする。

